

特集

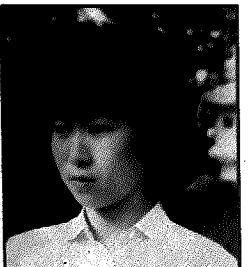
二十歳を迎えて



二十年の記録

- ▽三十五年(〇歳) 役場庁舎焼失
- ▽三十六年(一歳) 第二室戸台風により町内各所に被害
- ▽三十七年(二歳) ごみ焼却場完成
- ▽三十八年(三歳) 大野小学校体育館竣工
- ▽三十九年(四歳) 国体ウエイトリフティング会場地となる
- ▽四十年(五歳) 町営ガス供給開始
- ▽四十一年(六歳) 日米対抗抗毒レスリング大会開く
- ▽四十二年(七歳) 八・二八水害で各地に被害
- ▽四十三年(八歳) 宗村宗二メキシコオリンピックで金メダル獲得(レスリンググレコローマンスタイル)
- ▽四十四年(九歳) 清水町長就任
- ▽四十五年(十歳) 北陸自動車道ルート発表
- ▽四十六年(十一歳) 大野新町大火・新幹線ルート発表
- ▽四十七年(十二歳) 政令指定に
- ▽四十八年(十三歳) 町政施行
- ▽四十九年(十四歳) 立小小学校完成
- ▽五十年(十五歳) 県立黒埼高等学校開校
- ▽五十一年(十六歳) 広域農業により農田に大ゴミ処理場建設
- ▽五十二年(十七歳) 湯妻町長就任
- ▽五十五年(十八歳) 総合体育館完成・水害各地で被害
- ▽五十四年(十九歳) 日・中友好親善花大会を行う
- ▽五十五年(二十歳) 浄水場第二拡張工事終了
- ▽五十六年(二十一歳) 湯妻町長再選・野球場ナイター施設竣工

今号は、八月十五日に成人式を迎える六人の方に登場願ひ、二十歳を迎えての抱負、二十歳の目から見た黒埼町など日ごろ思っていることを述べていただきました。今年の成人式には昭和三十六年四月二日から三十六年四月一日まで生まれた男百二十八人、女百二十九人が招待されます。



黒埼町にも公園を！
山際美紀子 (木更)

最近スポーツが盛んに行なわれるようになってきました。町営の野球グラウンドには、ナイター設備も完備され、町営体育館、テニスコートも利用者が増えてきたように思います。そこで今度は、公園を作ってもらいたいと思います。誰でも気楽に足を踏み入れることができるような、子供たちのために、ブランコやすべり台、心を和ませてくれるような花壇や噴水、そんな公共の場があればいいなあ

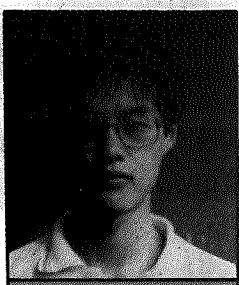


二十歳の門に立って
渡辺留美子 (八区)

私は今二十歳の門の前に立っています。じつとこの門扉を見て、と、各々の胸中に浮かぶのは、ただ社会的責任を免れていたあの懐かしい日々の思い出だけ。ルールをルールとして認めることができず、野放図にそれがあたかも、「子供」の特権であるかのように振舞っていたあの日々のことでしょうか。

あの頃は何でもやれました。子供は子供であるうちは一種の暴君として、家の中では猛威を振るい外では「悪戯小僧」として、四圍にその勇名を轟かせるものです。それが子供の子供らしいところとされ、誰もこれを疑う人はいませんでした。(今もそうでしょう)ところが次第に集団生活の時間が増えるにしたがって、自らの我儘というものに許されなくなりま

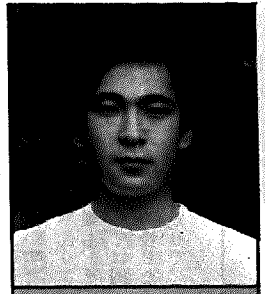
成人式を別の時期に



二十歳を迎えて
岩野 満夫 (黒埼)

どうとう二十歳になってしまった。今年の二月二十一日に二十歳の誕生日を迎えたのだけれど、そのことで自分の意識に何か大きな変化が起こることを期待していたのだが、別に変化といえるようなことは感じられなかった(早い話が実感は湧かなかつたというだけのことです)。これは大変だぞ、とぼくはうろたえてしまった。実感が湧かないことに対して、全く心の準備ができていなかったのだから。そういうわけで、二十歳になっ

私達はこの時代対人関係についての悩みに最もそのエネルギーを使いました。ようやく目覚めてきた「わたし」というものと他者とのどう調和させたらよいか分からないうからです。時々「やけ」を起



もつと町をばぐむ活動を
小林 初夫 (坂井)

一年前、白根でサークル活動を始め、そのサークルを通して知り合った人や、同地域の他サークルの人々と話をして、白根における若者のサークルの数の多さと彼等の土地に対する愛着心の強さに驚いたと同時に、黒埼にはこういう活動が皆無に近いことを悲しく思いました。おそらく原因は、町が新潟市に

と二十一歳で成人式を迎える人が半数弱くらいでしょうか。いるわけです。やはり成人式は、二十歳のうちにやることで、感激や二十歳という新鮮な気持が残っているとと思います。意識が残りように思います。できれば、三、四、五月くらいにやっていたらいいと思っております。そして、社会人となっている人も多いと思いますので、平日はさけて頂ければと思います。

ならぬのではないのでしょうか。黒埼は私たちが住んでいる土地であり、育った土地であり、また多くの仲間が居る素晴らしい土地なのです。それに生活という観点から見た場合、黒埼に住んでいる以上、生活の基準はあくまで黒埼にあるはずですから。それをただ寝に帰るベトナムとしてしまうことはあまりにも寂しいことではないでしょうか。幸いなことに、黒埼には新潟市内で活躍する若者が多いのですから、新潟市から様々な物を吸収するのは安易なはずですが、それならば吸収できる物はすべて吸収し、同化し、黒埼ならではの活動を私たち若者の手で生み出して若者のエネルギーで満喫した黒埼をつくり上げられたら最高なことではないでしょうか。その為にも町に対しては、スポーツ施設だけではなく、もつと様々なサークル活動のできる場を整えていただきたい、文化面に対してもより一層のご理解をお願いしたいと思っております。町外でサークル活動をやっている私がこのようなことを書く権利などはないでしょうが、私を含め町内の若者は黒埼という土地をもう一度見直し、愛着をもって町自体をばぐんで起していく必要があるように思えてなりません。